



2022年

12月イブ・4週の主日礼拝説教要約

・12月24日：ルカ福音書 2：8－20．

『ベツレヘムの夜』

・12月25日：ルカ福音書 2：22－33．

『ヌンク・ディミッテイス』

衣笠病院教会 牧師 宮原晃一郎

クリスマスイブの夜です。世界中の教会や街中でイエス・キリストの降誕を祝います。この時に平和が訪れます。さもないければ、平和に過ごしたい人々が、何とか平和を維持しようと努力します。この地球上では今夜も、また明日も。

ウクライナのキーウの街中の広場に、大きなクリスマスツリーが立ちました。横では、ツリーのイルミネーションを点滅させるための小型発電機が稼働しています。ミサイルの飛来がないことを祈りつつ。

イエスがベツレヘムで生まれた、今から2020年余り前はどこからもミサイルが飛んで来る心配はありません。新生児の誕生は神様から招かれた僅かな人たちによって祝われています。彼らには忘れられない平和な夜でした。どんなに寒くとも。どんなに貧しくとも。どんなにお腹がすいていても。この夜の歓びを、記憶から消し去ることはできません。

一方、エルサレムの王様に降誕の報せが届くと宮殿は一変、慌ただしくなります。支配者の地位を危うくする厄介者の誕生は放置できないようです。にわかに男児殺害計画が持ち上がります。権力者の心理（本音？）はいつの時代も同じなのかもしれません。イエスもウクライナの大統領と同じユダヤ人として、お生まれになりました。

20世紀のある高名な知識人は、言いました。もしイエスが本当に救い主（キリスト）だったなら、世界で悲惨な戦争が繰り返されることはなかったであろうと。そう言えば、2000年ほど前にも、同じようなことを言った者たちがいました。もし、お前が神の子なら、自分を救って、十字架から降りてこいと。

世界のキリスト教会では、イエスの誕生ばかりでなく、十字架による死と復活も祝います。また、地上に生きたイエス・キリストは人類に数多くのメッセージを遺しています。けっしてマリアの腕に抱かれた赤子のままだったわけではありません。

年の瀬に家族や友人とクリスマスを祝うだけでは、人間を救うキリストの肝心要のメッセージにたどり着くことはできません。ただ、聖書は世界中の多くの書店で購入することができます。そこには読めばわかることと、読んでもわからないことが記されています。もし後者の、意味不明の記事が見つければ、日曜日の教会の礼拝に出席することをお勧めします。

《 ヌンク・ディミッティス（いま汝、我を逝かせたまえり） 》

英語で“sing one's Nunc Dimittis”と書くと、「その人が満ちたりて（この世に）別れを告げる」ことを意味する告別の辞となります。この言葉の由来は、神殿で新生児のイエスと出会った時の、預言者シメオンの感極まった言葉の中に出てきます。

その時、イエスは生後40日が経ち、すでに割礼を終えており、両親は、初子の奉獻のために神殿に来ています。幼子が聖別され、天の祝福を受けるためです。ヘロデ大王の男児殺害の計画は、まだ動き出す前です。ユダヤでは、平和が保たれています。

その時、エルサレムにシメオンという人がいた。この人は義しい人で信仰が厚く、イスラエルの慰めを待ち望み、聖霊が彼の上にとどまっていた。

また、主が遣わすメシアを見るまでは死ぬことはない、聖霊によって告げられていた。（ルカ福音書2：25 - 26）

イエスの両親は、実家から遠く離れたエルサレムで、これといって知人と会う予定もありません。ところがそこに、聖霊に導かれた一人の老いた預言者が現れます。

介添えなしで両親が神殿に、定められた献げものをしようとした時のことです、親たちに代わってその腕に幼子を抱きあげたのが、預言者のシメオンでした。彼は霊によって、この子こそが待ち望まれたメシアでありイスラエルの慰めであることを神から告知されており、その真実を両親に告げ、主を賛美して叫びました。

主よ、今こそあなたはお言葉どおり、この僕を安らかに去らせてください。私はこの目であなたの救いを見たからです。これは万民の前に備えられた救いで、異邦人を照らす啓示の光、あなたの民イスラエルの栄光です。（ルカ福音書2：29 - 32）

天使による受胎告知からマリアの出産に至るまで、多くの不思議な体験をしてきたイエスの両親でしたが、この時、再び見ず知らずの預言者から

の祝福を受けることになるのです。幼子にまつわる前途多難な神の御計画のために、人生をささげることになる両親の苦心惨憺の日々を分かち合える人は、この世に誰もいません。神の子の子育ての手引きもありません。

こうして人類史上、空前絶後の神の子の養育が、ヨセフとマリアの手に委ねられます。聖書は唯一、ルカ福音書2章40節以下に興味深い後日談として、親子のささやかなエピソード（神殿での少年イエス）を載せています。人の親の苦勞が見て取れます。